

③ 学びの豊かさの充実

シニア世代が改めて大学へ通う「学び直し」や「再チャレンジ」といった学習活動や、生花や茶道、絵画などの文化・芸術活動、多世代が参加可能なスポーツ活動など、これら地域コミュニティの維持・活性化は文化的豊かさの追求といえる。

土佐町の「青木幹勇記念館」や、スポーツで地域を盛り上げる「土佐町ハピネススポーツクラブ」、本山町の「大原富枝文学館」や「本山町プラチナセンター」、「本山町吉野クライミングセンター」などは文化的豊かさを醸成する資源として大きな可能性を持っている。

ハピネススポーツクラブ



本山町プラチナセンター



大原富枝文学館



吉野クライミングセンター

また、本山町の県立嶺北高等学校は、地域の活性化に欠かすことができない存在であり、地域の未来を担う若者の育成をはじめ、地域の期待に応えられる学校づくりを目指している。平成 28 年度から始まった嶺北高校魅力化プロジェクトでは、県外から着任した地域おこし協力隊も参画して、英語力の強化やディベートの力を養う思考力の強化など、実践的かつ個性的な教育を行い人口減少が進む中山間地域の教育の在り

方を模索しており、平成 29 年度からは学校支援地域本部事業を活用した地域の教育力の向上に取り組むこととしている。

また、もとやま桜援隊¹や土佐町学校応援団²は、放課後子ども教室の運営や子どもの居場所づくり、登下校の見守り、サマースクールや体験学習の開催など多様な活動を行い、学校を核とした地域づくりを進めている。

今後、都市部での豊富な経験や知識を有するアクティブシニアが参画した、新たな地域教育プログラムの検討が期待される。

サマースクール



絵本の読み聞かせ



また、高知大学や高知県立大学等では、社会貢献活動の一環として定期的に公開講座を開設している。本山町と土佐町と連携し、地域の方々や行政職員、教育行政関係者を対象とした様々な講座が行われている。

平成 28 年度高知大学出前公開講座(土佐町)

- 地域をひらく学び合いをつくる
- 子育てと地域環境
- 今日からできる！認知症予防と認知症への対応
- 『聞く力』の発達とその支援－お話を聞く力はどのように育まれるか－

平成 28 年度 高知県立大学公開講座(本山町)

- MOTOYAMA の魅力を再確認！～本山町の観光について～
- 飲んだら食べられん！食べたら飲まれん！～食べ物と薬の組み合わせ～
- めくるめく王朝ロマンスの世界 ～源氏物語～
- CM にだまされない保険の選び方 ～消費者のための保険の話～

このように、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、趣味など様々な生涯学習の取り組みにアクティブシニアが教育の担い手として関わりを持つことで交流を促進し、教育する側、される側として互いに成長し、喜びを見出すことができる教育環境の構築を目指す。

¹もとやま桜援隊（本山町）

もとやま桜援隊は、「学校桜援隊・放課後桜援隊・家庭教育桜援隊」の3つの事業を行っており、学校桜援隊は引率支援・環境美化・学習支援などを町内2つの小学校にて実施している。放課後桜援隊は放課後子ども教室を、家庭教育桜援隊は親子歯みがき教室、えほん教室、人権講座など、家庭教育に関連した支援を行っている。

²土佐町学校応援団（土佐町）

土佐町学校応援団は、地域全体で学校・子どもを支援する活動を通して、学校教育の充実、子どもたちの安全確保、家庭・地域の連携による地域教育力の再生を図っている。放課後子ども教室の運営や小学校特別活動（お茶、囲碁・将棋、イラスト、マリンバ、アウトドアクラブ）や廃校を利用した学び場・交流の場づくりなどを行っている。

④ 自然的豊かさの充実

自然豊かな日本の国土にあって、私たちの伝統的な生活は、自然との触れ合いや季節のうつろいを楽しむことを一つの幸せの源泉としてきた。嶺北地域は四季のうつろいを鮮やかに感じることができる自然的豊かさの宝庫である。



⑤ 内面的豊かさの充実

内面的要素（自己実現、精神的ゆとりなど）は、生きがいや生活の自立など、いかに精神的充実を確保するかが重要となる。

そのような意味で、社会的豊かさを形成する地域社会との交流や、文化的豊かさを醸成する生涯学習への参加は内面的な豊かさを生み出す取り組みとして欠かすことができない。

⑥ 経済指標で測れない高知県民総幸福度（GKH）¹

高知県は、経済統計や経済指標などが全国的に下位に位置することが多いものの、沖合いに黒潮が流れる太平洋や、吉野川、四万十川、仁淀川などのいくつもの清流などから得られる豊かな水産資源があり、温暖多雨の気候により育った豊富な森林は、全国1位の森林率84%を誇っている。また、県庁所在地の高知市から車で30分も走れば、川で泳ぎ、魚を獲り、夜には蛍を眺めることができる自然環境があるのは、高知県ならではの豊かさである。

平成27年に高知県内の経済団体や大学などの教育機関、地方自治体等で組織する「高知家の家族会議」が高知県民の幸福度（高知県民総幸福度：GKH）を測るために、県民を対象としたアンケート調査を実施した。この調査で回収された6,400人の結果をみると、「身近な自然と食材の良さ」や「いざという時に頼れる人が身近にいる」、「社会の中での居場所がある」といったことを多くの高知県民が実感していることがわかる。

◆高知県民にとって実感度の高い項目

（「大いに感じる」「感じる」と回答した割合が6割以上の項目）

① 身近に新鮮で美味しい食材がある	86.3%
② いざという時に頼れる人が身近にいる	77.0%
③ 日々の生活で、自然を身近に感じる	65.0%
④ 家族との団らんがある	64.1%
⑤ 社会の中で自分の居場所がある	61.9%

県民所得や失業率などの経済指標にとらわれない「幸福度の追求」も高知県の特徴の一つであり、今後、嶺北ならではの幸福度を追求していくためには、嶺北独自の幸福度指標を策定することも有効な手段であると考えられる。

¹ 高知県民総幸福度（GKH=Gross Kochi Happiness）

土佐経済同友会が平成23年からブータン王国の国民総幸福量（GNH）にならって提唱してきた、県民所得や失業率などの各種の統計数値に現れない高知独自の豊かさなどを表す指標、高知らしい豊かさや県民の主観的な満足度を測るために、「食の豊かさ」「暮らしの安心」「人との交流度」「地域コミュニティとのつながり」等が評価項目に設定されている。